

キヤルシステム◆運行管理ソフト

# AI活用サービスと連携

## 機能拡充し負担軽減

キヤルシステムコンサル  
ティンク（稲葉允章社長、  
静岡県富士市）は12月から、  
運行管理ソフト「運びま専  
科」のVer. Vの販売を  
開始した。AI（人工知能）  
を使い、ラストワンマイル  
に特化したルート最適化サ  
ービス「ルーシア」を提供  
するオペティマインド（松

下健社長、名古屋市中区）  
とも連携。人手不足の運送  
業界に対し、機能拡充とA  
Iを活用したサービスの連  
動で、管理者の負担を軽減  
するとともに、引き継ぎを  
より簡単にする。

今回のバージョンでは、  
受注配車の強化がポイン  
ト。マイクロソフトの表計  
算ソフト「エクセル」を扱  
う感覚で入力できる画面構  
成を取り入れた。受注オー  
ダー入力は、ドラッグ&ド  
ロップで移動可能な上、内  
容は配車表に自動生成し、  
カーソルを合わせるだけで  
詳細情報が表示される。

また、勤怠管理を給与デ  
ータベースに反映させる機  
能を追加。日々の運転日報  
で入力したドライバーごと  
の時間データが集計され、  
勤怠表が自動作成される。  
データを他の給与ソフトと



営業担当者  
と稲葉社長

連携できる。  
「運びま専  
科」のバージ  
ョンアップ  
は、2014  
年以來5年ぶ  
り。稲葉社長  
は「これから  
の時代、AI  
とクラウドが  
キーワードになる。今回は、  
運送会社にとって事業運営  
の要になる配車マンをAI  
で手助けしたい思いをコン  
セプトに製作した」と説明。

その上で、「業務負担の軽  
減と効率化に向け、IT（情  
報技術）に理解のある若手  
経営者に使ってもらい、中  
小物流事業者の問題解決を  
目指す当社の理念を全国に  
発信していきたい」と話し  
ている。  
（梅本誠治）